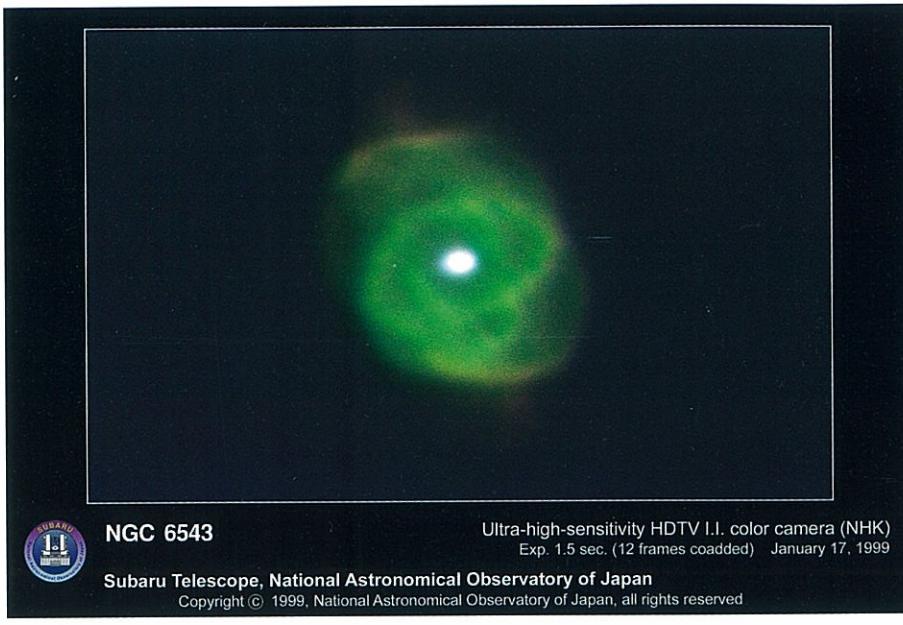


すばる

写真館

最終回

■ NGC6543



NGC 6543

Ultra-high-sensitivity HDTV I.I. color camera (NHK)
Exp. 1.5 sec. (12 frames coadded) January 17, 1999Subaru Telescope, National Astronomical Observatory of Japan
Copyright © 1999, National Astronomical Observatory of Japan, all rights reserved

★この惑星状星雲は、200光年と近いところにあり、10等級と明るいのでアマチュア天文家には、よく親しまれている天体である。そもそも、あだなが3つもある天体は、全宇宙広しといえども、そうたくさんはない。“CAT'S EYE NEBULA”（猫の目星雲）、“SNAIL NEBULA”（蝸牛星雲）、“SUNFLOWER NEBULA”（ひまわり星雲）と、人それぞれ連想するものが違うらしい。ところが、学問的には、あまり良く分からぬ天体で、そもそも主星のスペクトル型に、“?”

マークがついている。もっとも何でもかでも、理窟をつけなければ人生が生きられないわけでもなし、学者がなにを言おうが、宇宙をみて奇麗だと素朴におもってきたのが、何千年の人類の歴史なのだろうから、こういうアマチュアが楽しむ天体も貴重なのかもしれない。すばるの画像はあまり詳細を写していないが、本当に見ごたえのある画像に興味のある方は、ハッブル宇宙望遠鏡の画像のギャラリーがあるサイト：http://hubblesite.org/gallery/album/entire_collection/pr2005012t/をお推めする。税金はこうやって還元するという好例のようである。

(光赤外研究部 中島 紀)

■ ペルセウス座銀河団

★2億3500万光年離れたペルセウス座銀河団の中心にある銀河NGC1275。強いX線や電波を発している。中心には、大質量のブラックホールがあると考えられている。渦状の構造や塵で暗く見えている構造、青く明るい若い星がめだつ領域は、手前にある銀河の構造のようだ。この銀河が、その奥にある巨大な橢円銀河と時速1000万kmもの速度で衝突しているらしい。奥にある巨大な橢円銀河には、手前の銀河とは別の小さな渦状の構造や複雑なフィラメント状の構造も認められる。ここで

Perseus Cluster of Galaxies
(NGC 1275 at the center)Subaru Telescope, National Astronomical Observatory of Japan
Copyright © 1999, National Astronomical Observatory of Japan, all rights reservedUltra-high-sensitivity HDTV I.I. color camera (NHK)
Exp. 2.5 sec. (10 frames coadded) January 16, 1999

は2個以上の銀河が衝突しており、その衝撃で新しい星や大きな星団が生まれている。X線観測衛星チャンドラで270時間にわたる観測を行った結果、ペルセウス座銀河団では、温度にして数百万度、太陽質量の数兆倍の銀河間プラズマの海の中を、数千個の銀河が駆けめぐっているようすが見えてきた。温泉にゆったりと浸るというよりは、大変な世界のようだ。

(光赤外研究部 家 正則)

★2004年10月号から連載が始まった「すばる写真館」は、今回(18回)が最終回です。そこで、スペシャル版として4画像を紹介しました。1年半にわたって執筆いただいた家正則さんと中島紀さんには、深く感謝いたします。4月号からは新しい連載がスタートします。どうぞ、お楽しみに!

(係)